荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -

市民を愛する　市民に愛される　病院へ

第25号（平成25年11月発行）

地域医療連携だより
小岱

〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）（内線536）
FAX　0968-62-4543
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

《病院理念》

荒尾市民病院は地域住民の健康の維持増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指す。

《基本方針》

1. 地域の信頼に応える急性期医療を目指し、最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、温かい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します

《患者様の権利》

・あなたは、あなたの病気について必要な医療を受けることができます。
・あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択することができます。
・あなたは、医療の内容についてご自分の希望を申し出る事ができます。

新任医師の紹介

丸山　祐二（まるやま　ゆうじ）　消化器内科部長

鴻江　勇和　（こうのえ　たけやす　）　消化器内科部長

認定看護師の紹介

地域医療連携における脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割

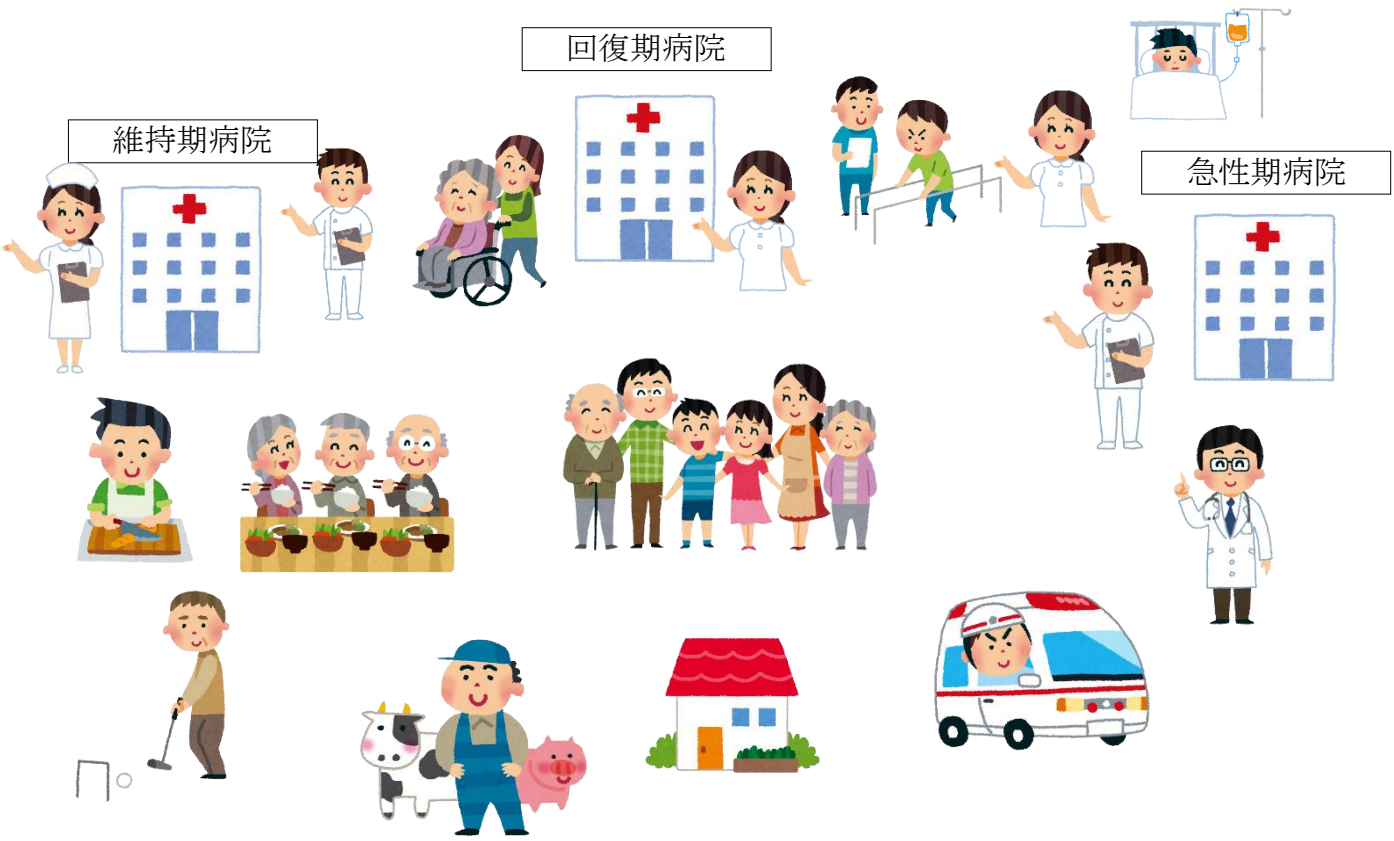
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　寺本清美

今回第21回認定看護師認定審査に合格し、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師とし、活動することになりました。脳卒中リハビリテーション認定看護師は、急性期から回復期及び地域に至る脳卒中患者・家族支援をしています。

脳卒中は日本人の死因第4位、寝たきりになる原因または介護を要する疾患の第1位を占めています。人口の 高齢化に伴い脳卒中患者数の増加が予測されます。脳卒中診療の特徴は①救急疾患であること②発症から速やかに専門的治療が開始されなければならないこと③脳卒中患者の多くは高齢であること④救命救急治療後に障害が大きな問題となることです。従って脳卒中診療には地域の救急医療から在宅支援に至る包括的な体制の構築が重要であり、熊本県では熊本脳卒中地域連携ネットワーク研究会(K―STREAM)が発足され脳卒中地域連携パスにて「リハの継続性と治療の継続性」をkey wordとし活動されています。

脳卒中治療は「疾病」から「障害」、「障害」から「生活」へと病期によりアプローチの仕方が異なっています。そのため急性期・回復期・維持期施設の多職種スタッフすべてが相互に理解を深め、共通のゴールに向かい適切な患者情報の共有できる連携で脳卒中患者、家族を支えいく必要があります。

その中、急性期病院の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割は、脳卒中患者の発症直後から6ヶ月間の経過や、在宅での生活の問題点を推測でき、発症した時から生活者の視点を持ち動かないといけないことを伝えていくことです。また患者の一番そばにいる看護師が、患者の情報を回復期・維持期にバトンタッチしていくことです。 脳卒中診療の中心は他職種チームによるリハビリテーション治療であること、急性期・回復期・維持期の共通言語は「ADL」であることから、橋渡しナースとし活動していきたいと思っているので是非活用してください。



感染管理認定看護師の役割

感染管理認定看護師　　船原　初美

この度、感染管理認定看護師として活動することになりました。
感染管理認定看護師は医療施設を利用する患者さん、ご家族、訪問者はもちろん、現場で働くすべての人々を感染源から守ることが主な役割となります。
具体的には、医療関連感染サーベイランスの実施、施設の状況にあった効果的な感染防止対策の立案・実施・評価、施設内のすべての人々の職業感染の防止、感染に関わる指導・相談、感染予防・管理の視点からのファシリティ・マネジメント（患者の安全な療養環境を確保するため、施設の清掃や廃棄物処理などやメンテナンスに関する管理を統合的に総括するシステム）の推進などを行います。
感染管理認定看護師が認定開始になったのは2001年です。現在までに1808名の感染管理認定看護師が誕生しており、現在、熊本県下の認定者数は27名です。
感染対策は日々進歩しています。感染に関する新しい知識を取り入れながら、荒尾市民病院の感染対策向上を目指し、市民の方たちがいっそう安心して医療を受けられる病院作りの為に活動していきたいと思っています。

荒尾市民病院認定看護師による在宅患者訪問看護・指導の紹介

平成24年度の診療報酬改定で、効率的かつ質の高い訪問看護の推進を目的に訪問看護師と専門性の高い看護師による同一日訪問が可能となりました。

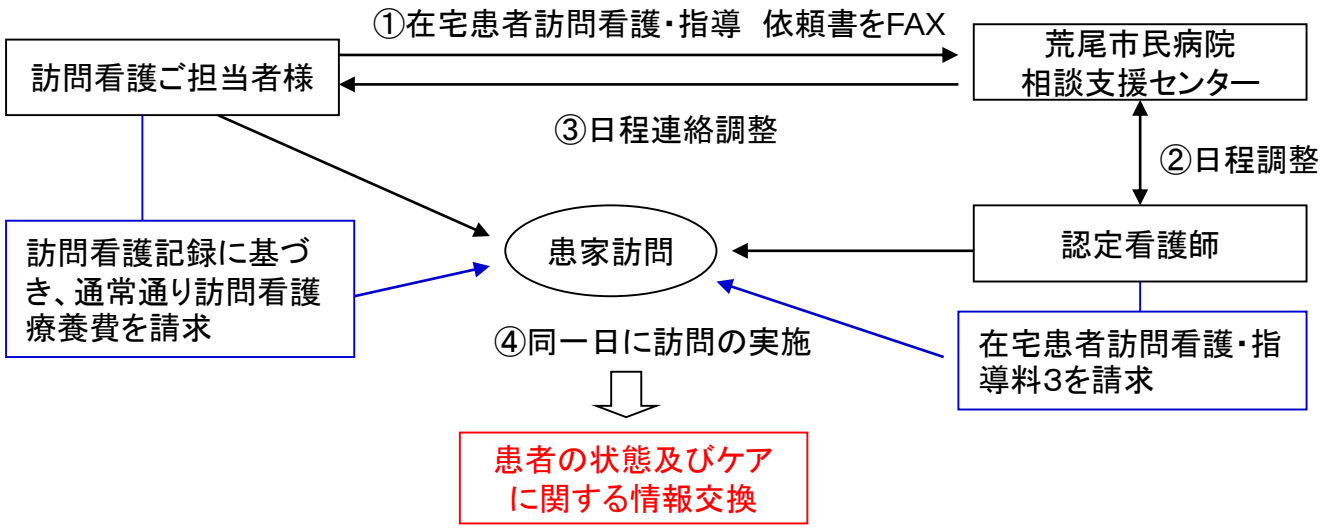
例えば、

①当院の緩和ケア認定看護師と鎮痛療法又は化学療法を行っている入院中以外の緩和ケアニーズを持つ悪性腫瘍の患者に対して同一日に訪問看護を行う。

②当院の皮膚・排泄ケア認定看護師と真皮を越える褥創の状態にある在宅療養中の患者に対して同一日に訪問看護を行う。

当院では、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師による在宅患者訪問看護・指導が可能です。

具体的な利用方法などは当院相談支援センターまでご連絡下さい。



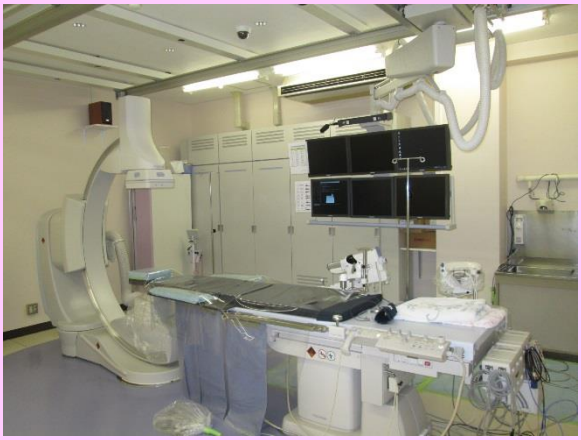
平成25年度　医療機器整備状況

リニアック：高精度治療への対応

当院では昨年4月に放射線治療機器・治療施設を一新し治療センターとして開設・稼働しておりましたが、地域のがん治療により貢献すべく本年5月1日に1ヵ月間の工事を経て高精度放射線治療への対応を行いました。これにより前立腺がんの強度変調放射線治療（IMRT）、および肺腫瘍の定位放射線治療が当院でも施行可能となりました。これらは治療成績が手術と遜色ないとされている放射線治療技術で、さらに地域医療の質の向上に貢献できるものと考えております。

心臓・血管造影室の新システム導入

本年7月30日から当院の心臓・血管造影室のX線血管造影装置（シネアンギオシステム）が新しくなりました。今回導入された装置は東芝社製の最新型の循環器用X線血管撮影装置（Infinix Celeve-i’ INFX-8000V）で、従来型より高い診断性能をもち、さらに小型、高速かつ安全なシステムとなっています。また同時により高度な機能、診断精度を持つ最新型の心臓超音波装置（GE社製Vivid E9）も導入しました。これらの最新型のシステムを使用する事で、虚血性心疾患や心不全などの循環器疾患に対してこれまで以上の良質の医療を迅速に提供できるようになりました。



開放型病床利用のご案内

かかりつけ医の先生と当院の医師とが協力して、継続的に高度の医療、検査、手術などを受けていただけるよう開放型病床を10床準備しています。退院後も引き続きかかりつけ医の先生に病状を診ていただけるので、患者さんは安心して最善の治療を受けることができます。

開放型病床の利用は、有明地域医療連携ネットワークに加盟している医療機関の医師または事前に登録医として申請が必要です。

利用の際は、診療情報提供書に“開放型病床利用希望”と記載して下さい。

編集後記

食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋・・・！皆様は、どのように秋を満喫していますか？

私は先日、職場の仲間とバーベキューを楽しんだのですが、秋なのでメニューにさんまと採りたて椎茸を加えました。どちらも好評で、楽しい秋のひと時を過ごしました。

実りの秋・・・実りある地域医療連携に今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

相談支援センター　宮川